
地域史研究

—尼崎市立歴史博物館紀要—

第 121 号

令和 4 年 2 月

お届けします…

□第 121 号をお届けします。尼崎市立歴史博物館の紀要として 2 号目となる今回は、館のスタッフの論考を多く掲載しました。巻頭楞野論文は、館蔵の新出史料である秀吉朱印状を紹介。続く室谷論文は、寛文期の城下町改造の特異性から、大坂城守衛を担う街道沿いの尼崎藩の重要性に言及しています。いずれも当館学芸員執筆です。

■村上論文は、館蔵の近代俳諧史料の考察です。続くシンポジウム記録は、博物館・公文書館をテーマとして当館開館直前に園田学園女子大学で開催されたもの。稲村和美市長もパネラーとして参加しています。

□史煙は、古文書学習指導や地域史編さんに長く携わられた故 hands 博さん・羽間美智子さんの追悼文です。アーカイブズ通信には、当館アーキビストの松本・吉川による職務実践にもとづくレポートを掲載しました。

■このほか、古代・中世史料、昭和初期の尼崎市の記録翻刻と考察、市内の民俗・文化財を紹介する連載「あまおぶね」を掲載しました。料理旅館立花楼絵はがきの巻頭グラビアと合わせてご味読ください。